

## 調 査 活 動 実 績

氏 名 三石 文隆

令和6年度の政務調査に関する主な活動の実施状況は、次のとおりであります。

- 1 教育の質的向上、教育の振興に関する調査研究等
- 2 南海トラフ地震対策に関する調査研究等
- 3 地方創生・デジタル化の推進に関する調査研究
- 4 行財政改革に関する調査研究等
- 5 健康政策に関する調査研究
- 6 福祉政策に関する調査研究
- 7 産業の振興等に関する調査研究等
- 8 陸、海、空の交通基盤の充実にに関する調査研究
- 9 観光振興の推進に関する調査研究等
- 10 文化芸術の振興、文化財の保存と有効活用に関する調査研究等
- 11 中山間地域の活性化、基盤整備に関する調査研究等
- 12 高速道路や地方道の財源確保に関する勉強会、地域の道路ネットワーク整備等に関する調査研究
- 13 雇用の確保に関する調査研究
- 14 少年非行防止対策、交通安全対策に関する調査研究
- 15 国際交流・文化交流促進に関する調査研究
- 16 その他の県政全般の課題に関する調査研究

調査項目は以上であります。政策の重要性に鑑み、次の事項について重点的に調査を行いましたので、その概要を報告します。

## ○ 教育の充実について

県教育委員会は、「第3期教育等の振興に関する施策の大綱」及び「第4期高知県教育振興基本計画」をもとに、「きらっと いきいき あったかい『高知家』の教育」を目指し、授業改善サイクルの確立・授業と授業外学習を切れ目なくつなぐシームレス化や、多様化・複雑化する子どもたちの状況に応じた支援の強化など、PDCAサイクルによる進捗管理を徹底しながら、様々な政策・施策等を実行することとしています。

そうした中、令和6年度は、小中学校の基礎学力の定着に向け、AIデジタルドリルによる個別最適化された学習の実施や、県版学力調査・デジタルドリル学習結果等のスタディログ（学習履歴）を教員・児童生徒が活用など、個別最適・協働的な学びの一体的な充実に向けた授業づくりを推進しています。また、個々の児童生徒に応じた支援の充実を図るため、校内サポートルームの設置や不登校生徒へのオンラインサポートの実施、高等学校と地域とを結ぶ「高校魅力化コーディネーター」の配置など、取り組みの強化を行っているところです。

こうした取り組みにより着実に成果が出る一方で、令和6年度の全国学力・学習状況調査では、中学校は、国語・数学ともに全国平均には届いていない状況です。また1,000人当たりのいじめの重大事態発生件数はまだ全国と比較しても多く、不登校の発生率は上昇傾向にあり、子どもたちが安心安全な学校生活をおくるという点においてはまだまだ厳しい状態にあるなど、多くの課題を抱えています。

このような状況に対し、子どもたちの現状、教員の現状、保護者の現状、そして地域の現状を把握し、教育委員会や学校現場の関係の皆さん、保護者の皆さんと精力的に意見交換を重ね、課題の解決に向けた提言を行い、改善を図ってまいりました。

今後も、子どもたち一人一人が、目まぐるしく激変する世界の中でも生き抜く力を身につけることができるように、県教育委員会に対し、様々な場面で教育の充実に向けた意見を述べてまいります。

## ○ 人口減少対策について

県政の最重要課題である人口減少に対応するため、「高知県元気な未来創造戦略」をもとに、4～5年後までに若年人口の減少傾向に歯止めをかけ、概ね10年後までには現在の水準まで回復させることを目指しています。

そうした中、市町村との連携や教育移住に関連する施策などに提言してまいりました。

今後も調査研究を進め、持続可能な人口構造への転換を図るための意見を適宜、述べてまいります。

## ○ インフラの充実・有効活用について

県では、国の「防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策」を最大限活用し、地域経済を支えるインフラ整備や、南海トラフ地震などの大規模災害対策に全力で取り組んでいます。

そうした中、昨年の能登半島地震では、道路の寸断や堤防の損壊などの深刻な被害が発生し、人命救助や物資輸送といった発災後の対応に支障を来す場面を目の当たりにしました。四国8の字ネットワークや浦戸湾の三重防護など必要性・緊急性の高い事業や、中山間地域の道路整備など地域の実情を踏まえたインフラ整備など、県民の皆さんの命を守るインフラ整備を加速化し推し進めるべく、意見を述べてまいりました。

今後も、全国と比較すると遅れている本県道路の早期整備や適正な維持管理など、さらなるインフラの充実・有効活用を図るために調査研究を進めてまいります。

## ○ 文化芸術の振興について

県では、文化芸術振興ビジョンをもとに、文化芸術の力で心豊かに暮らせる社会づくりを目指して、令和8度の国民文化祭の開催準備や、伝統的な祭りや民俗芸能の保存・継承、県史編さんなどの取り組みを総合的に推進しているところです。

そうした中、各地域において古くから伝承されてきた工芸技術など無形文化財に関する取組について、提言をしてまいりました。

伝統的な技能は文化や歴史の一部であり、失われることで貴重な遺産も失われる可能性があります。工芸技術などの無形文化財を次世代に確実に引き継ぎ、その技術的価値を発信することは文化芸術の振興にとどまらず、中山間地域の振興にも大きく寄与する取り組みであり、今後も、積極的に意見を述べてまいります。